

CSR 報告書 2015



美しい地球の未来に…



白金、Platinum

触媒から抗がん剤まで、可能性を十分に秘めた期待の星。



金、Gold

装飾用はもちろん、携帯電話やスマホの中で極細線となって電気をつなぐ大切な役目を果たすマルチタレント。



銀、Silver

銀なくして写真は生まれなかった。鏡にも使われる身近な存在。



パラジウム、Palladium

水素を大量に取り込める性質で高純度水素製造装置として威力を発揮。



ロジウム、Rhodium

塊の状態であれば、どんなものにも溶けない。非常に硬く、表面を硬くするためにめっきに使われる。



イリジウム、Iridium

硬さ、耐食性に優れ、自動車用スパークプラグや、高温に耐えるためLED用サファイヤ基板製造用のつばにも使用されている。



ルテニウム、Ruthenium

水から水素を発生させる光触媒として活躍。ハードディスクの記録容量の増加に貢献。



オスミウム、Osmium

バイオテクノロジーや科学捜査に役立っている。



適切に管理された森林で生産された木材を使った環境配慮型のFSC認証紙を使用しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



国産材の利用を促進する「木づかい運動」を応援しています。



この印刷物は植物油インキを使用しています。



有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



TANAKAグループの企業理念と行動指針

企業理念

**TANAKAグループは、
貴金属のリーディングカンパニーとして、
創造性あふれる技術力をもって、
お客様の信頼と期待に、スピーディーに応え、
貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と、
美しい地球の未来に貢献します。**

行動指針

TANAKA人 5カ条

**私たちは、お客様から選ばれ続けるため、
常に感動を創出し、謙虚に学ぶことを忘れず、
日々、5カ条を実行します。**

- 1.あいさつ *Greetings* 心を込めた挨拶で、信頼の絆を結びます。
 1.えがお *Smile* 明るくのびのびと、笑顔で輝き続けます。
 1.かんしゃ *Thanks* 感謝の心で、ゆたかな人間力を育みます。
 1.あんぜん *Safety* 安全を最優先し、最高の仕事をします。
 1.ちょうせん *Challenge* 柔軟な発想で挑戦し、夢を実現します。

TANAKA



TANAKAグループでは2012年10月に掲げた新たな企業理念および行動指針の下、日々社員のコミュニケーション向上を図りながら、全社一丸となった事業活動を行っています。このコミュニケーション向上活動をチャレンジシップと命名、シンボルとなるマークを作成しました。本年度はさらにこの活動をより活発に進めていきます。

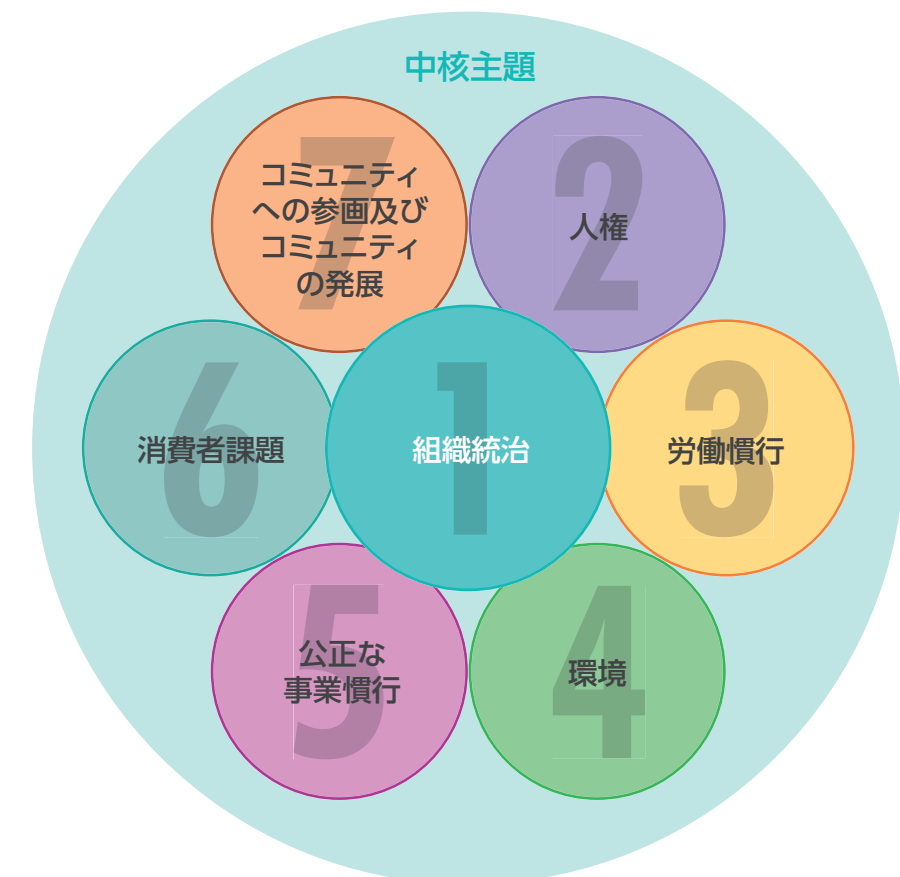
LONDON
PLATINUM &
PALLADIUM
MARKET

田中貴金属工業(株)は、ロンドン地金市場協会(LBMA)より、金および銀の公認審査会社に任命されています。また、ロンドン・プラチナ・パラジウム・マーケット(LPPM)の公認審査会社にも任命されています。どちらも、世界で5社のみ(国内では田中貴金属工業(株)のみ)が、貴金属の公認溶解業者の溶解技術・分析能力を審査する使命を担っています。

CONTENTS

00 企業理念／行動指針	14 環境
02 トップメッセージ	16 公正な事業慣行
04 TANAKAグループの事業／財務情報	18 消費者課題
06 TANAKAグループの事業拠点	20 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展
08 組織統治	22 セキュリティ・BCP/M・リスクマネジメント
10 人権	24 第三者所感
11 労働慣行	25 TANAKAグループより

TANAKAグループのCSRマネジメント



「2020年のありたい姿」への成長を支えるCSR活動の推進

お客様の信頼と期待にスピーディーに応えることを旨とし、常に感動を創出することを目指しています。確かな品質の実現によってお客様との約束を守りながら、期待を超える対応にも注力しています。



事業の維持継続により、社会的責任を果たす

企業にとって「リスクの発生をいかに抑えるか」「発生したリスクをいかに最小限にとどめるか」は、大きな課題です。昨年10月に開業50年を迎えた東海道新幹線(東京-新大阪間)では、延べ56億人にも上る乗客の死亡事故はゼロでした。これは正に、JR東海様のリスク管理の姿勢が実を結んだ好例です。TANAKAグループは2015年で創業130年を迎えますが、今日まで事業を継続できたのも、リスク管理に力を注いできた結果であると考えております。

今、企業経営の健全性を示す尺度の一つとして「サステナビリティ(持続可能性)」という言葉が注目されています。これからの企業は、短期的に利益を上げることだけではなく、顧客・取引先・株主・従業員などのステークホルダーに対して価値を提供し続け、事業を存続させていくことが求められます。企業の社会的責任(CSR)とサステナビリティは車の両輪のように密接に関連しています。サステナビリティを維持するため、今後も企業の社会的責任を果たしていくことが重要となるでしょう。

新中期経営計画の下、CSR活動を幅広く展開

TANAKAグループでは、2015年度から新しい中期経営計画「GOGO計画2020」がスタートしました。今後の事業経営の大きな柱となるこの中期経営計画の中で、企業の社会的責任(CSR)をしっかりと果たしていきたいと考えております。

2014年度もグループを挙げてCSR活動を推進しました。まずは行動憲章・行動規範を改訂し、TANAKAグループホームページへ掲載しました。CSR推進活動の基本ともいべき行動憲章・行動規範をISO26000に合わせた構成としてCSR推進活動と強く結び付け、更にホームページで公開することで、より多くの方々にTANAKAグループのCSR推進活動について知っていただくことを目的としております。

社会貢献活動は、2014年度は『交流』をテーマに展開しました。「障がい者の方々へのスポーツ普及支援」として、継続的に協賛している日本障がい者スポーツ協会主催の大会に従業員も駆けつけ、障がい者の方々との交流を図り

ました。また2013年度から「記憶の継承」をテーマとして、TANAKAグループ創業135周年にあたる2020年度までに135本を目標に、東日本大震災被災地で桜の植樹を続けております。2014年度は従業員が植樹に参加、被災地の方々との交流を深めました。従業員一同が、災害の恐ろしさと防災の大切さをあらためて知り、現地の方々とも思いを共有する良い機会となりました。

安全に関しては、2014年度の労働災害は発生件数16件と、前年度の30件から大きく減りました。これも「安全を最優先し、最高の仕事をします」との行動指針の下、全ての従業員が安全な職場づくりに尽力した結果です。今後も、件数削減はもとより、重大な事故・災害を起こさないよう、全社一丸となって安全活動に取り組んでまいります。

環境についても、CO₂削減、廃棄物削減、環境異常撲滅に対して高い目標を設定し、従業員一人ひとりが挑戦しております。

企業が社会的責任を果たすにあたり、従業員が強い責任感と高い意欲を持って働ける環境づくりは重要です。中期経営計画ではES(従業員満足度)の向上を課題に設定し、さまざまな活動を進めております。ハラスメント防止や独占禁止法遵守など、従業員へのコンプライアンス教育を今後も継続して実施する予定です。

最後に、2015年度から、海外を中心にTANAKAグループのお客様の多くが遵守しているEICC(アメリカ電子工業会の行動規範)を強く意識してCSR活動を進める方針としました。これにより、CSR活動の進捗度を明確にしつつ、より積極的に活動を推進してまいります。

田中商店として創立したTANAKAグループは、「GOGO計画2020」完了の年に創業135年を迎えます。今後もサステナビリティを重視し、200年、300年と続く企業を目指してまいります。グループのCSR活動を網羅する「本報告書」を是非ご一読いただき、私たちの姿勢をご理解いただけますと幸甚です。

TANAKAホールディングス株式会社
代表取締役社長 執行役員

田中 苗 明

TANAKAグループの事業



主要製品及び事業

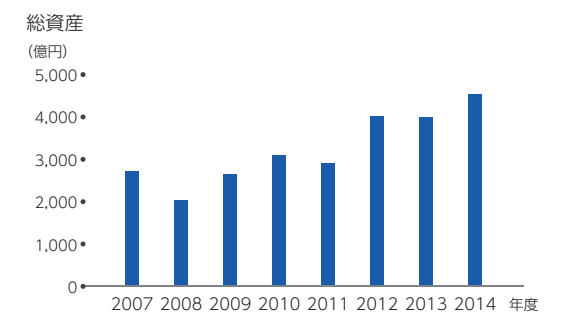
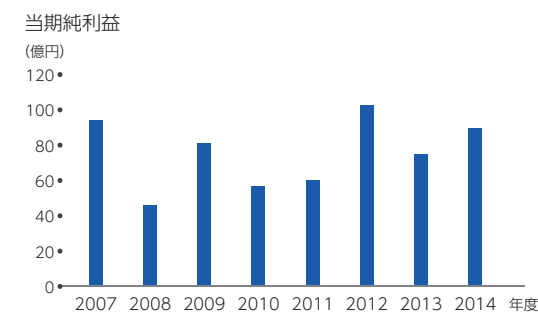


TANAKAグループの業績

■業績要約

	2013年度	2014年度	前年度比
売上高	967,665	856,449	88.5%
税引前利益	12,177	13,736	112.8%
当期純利益	7,510	8,989	119.7%
総資産	398,955	454,541	113.9%
自己資本比率	42.8%	40.7%	—

百万円

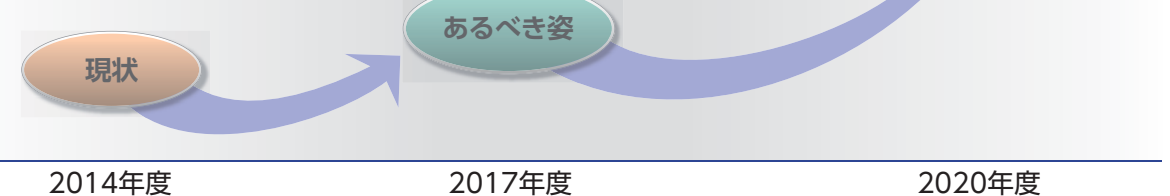


GOGO計画2020

2020年のTANAKAグループのありたい姿

自由闊達な企業風土を継承し、
貴金属事業の3本柱の更なる推進により
グローバル企業に成長・発展している

ありたい姿

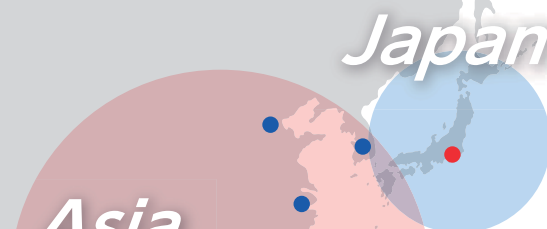


世界におけるTANAKA

TANAKAグループは、3つの主要事業（産業用、資産用、宝飾用）における研究開発・生産・販売等の拠点を、日本およびアジア諸国、北米、欧州に展開しています。



Europe



Asia

Japan



North America

TANAKAグループ国内 10社



TANAKAホールディングス株式会社 (THD)

- 本社 (東京) ● 大阪本社

田中貴金属工業株式会社 (TKK)

- 本社 (東京) ● TANAKA物流センター ● 岩手工場 ● 富岡工場 ● 市川工場 ● 袖ヶ浦工場 ● 伊勢原工場 ● 平塚工場 ● 湘南工場 ● 平塚テクニカルセンター ● 筑波事業所 (テクニカルセンター) ● 伊勢原テクニカルセンター ● FC触媒開発センター

田中貴金属販売株式会社 (TKH)

- 本社 (東京) ● 仙台支店 ● 横浜支店 ● 長野支店 ● 名古屋支店 ● 大阪支店 ● 岡山支店 ● 福岡支店 ● 滋賀営業所



田中電子工業株式会社 (TD)

- 東京事務所 (東京) ● 本社工場 (佐賀) ● 湘南分工場



田中貴金属ジュエリー株式会社 (TKJ)

- 銀座本店 ● 新宿店 ● ホテル椿山荘東京店 ● 横浜元町店 ● 仙台店 ● 名古屋店 ● 栄店 (ブライダル専門店) ● 心斎橋店 ● 福岡天神店 ● 新潟三越店



日本エレクトロプレイティング・エンジニアーズ株式会社 (EEJA)

- 本社 (東京) ● 平塚事業所



株式会社日本ピージーエム

- 本社 (東京) ● 小坂工場

TANAKAグループ海外拠点

田中貴金属工業株式会社 (TKK)

- 台湾田中貴金属工業股份有限公司 ● 田中先端有色金属材料 (杭州) 有限公司

田中電子工業株式会社 (TD)

- 田中エレクトロニクス・シンガポール株式会社 (TES) ● 田中エレクトロニクス・マレーシア株式会社 (TEM) ● 田中電子 (杭州) 有限公司 (TEC) ● 台湾田中電子股份有限公司 (TET) ● 台湾田中電子股份有限公司 テクニカルセンター



台湾田中貴金属工業股份有限公司

台湾田中電子股份有限公司 テクニカルセンター

日本エレクトロプレイティング・エンジニアーズ株式会社 (EEJA)

- EEJA America Inc.

田中貴金属インターナショナル株式会社 (TKI)

- ソウル支店 ● 香港支店 ● 台北支店 ● 高雄営業所 ● マニラ駐在員事務所 ● 田中貴金属 (上海) 有限公司 ● 本社 (上海) ● 深圳支店 ● 田中貴金属インターナショナル (アメリカ) 株式会社 ● 本社 (シカゴ) ● サンノゼ支店 ● 田中貴金属インターナショナル (タイランド) 株式会社 ● 田中貴金属インターナショナル (欧州) 有限公司 ● 田中貴金属インターナショナル (マレーシア) 株式会社 ● 田中貴金属 (シンガポール) 株式会社

喜星金属株式会社

株式会社日本ピージーエム

- 株式会社日本ピージーエム・アメリカ ● 株式会社日本ピージーエム・ヨーロッパ

成都光明田中環技術有限公司

成都光明派特貴金属有限公司



グローバル企業に ふさわしいガバナンス 体制と、ISO26000を 基軸としたCSRの推進

グローバルに展開する企業に
ふさわしいガバナンス体制を構築し、
ISO26000を基軸とした
CSRを推進します。

コーポレート・ガバナンス体制と内部統制システム

TANAKAグループは、健全で透明性の高い経営を実現するために経営に対する監視の仕組みを充実させ、常に効率的で競争力のある企業集団となることを目指しています。

また全てのステークホルダーの皆様の権利と利益を尊重し、適法かつ妥当な業務執行、適正かつ透明な会計等を実現するための企業経営を行うことを目的に、コーポレート・ガバナンス体制を構築し、内部統制の原則を定めています。この体制と原則に基づき経営目的の達成に向けた内部統制システムの中で取締役会、グループ経営委員会、監査役会、内部監査部がそれぞれの役割を確実に実行しています。

◆ 取締役会(取締役)

激しい経営環境の変化に効率的に対応すること、および経営責任の明確化を図るためグループ各社の取締役の任期は1年としています。TANAKAホールディングス株式会社の取締役会は、自らはもとよりグループ全体の業務執行に関する基本方針を決定します。また各社取締役会は、重要事項の決定のほか業務執行状況につき報告を受けることにより、取締役の業務執行を監督します。

◆ グループ経営委員会

グループ全体に関する重要事項やグループ各社間の調整が必要な事項に関し、取締役会における審議・運営を円滑ならしめるため、グループ経営委員会にて各事項の審議・裁定・調整・承認をします。またグループ各社の社長が出席することからそれぞれの会社の活動報告並びに情報共有を目的の一つとします。

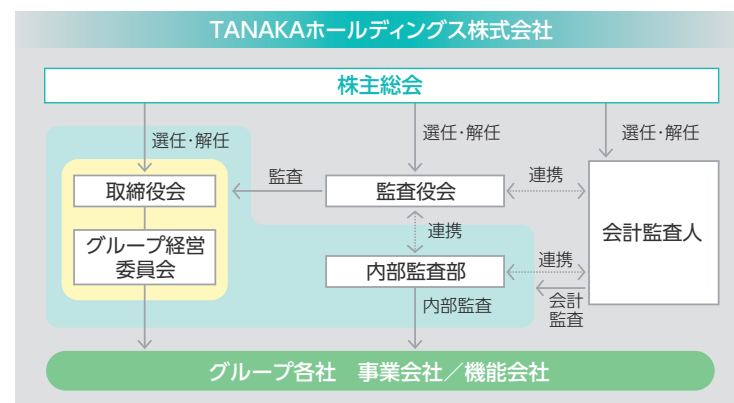
◆ 監査役会(監査役)

TANAKAホールディングス株式会社は、監査に関する重要な事項について報告を受け、協議を行い、または決定するため、監査役全員による監査役会を設置しています。監査役は主に取締役の業務執行を監視する役割を担いますが、経営の客観性を確保するため監査役のうち半数以上は社外から選任されます。

◆ 内部監査部

内部監査部は、グループ各社の経営目標の効果的な達成に役立つことを目的として、公正かつ独立の立場で業務活動が適正かつ効率的に実施されているかを評価・検証し経営層に提言する役割と責任を負っています。また監査役会や会計監査人と定期的に意見交換を行なうことにより、相互連携を確保しています。

■コーポレート・ガバナンス体制



TANAKAグループ行動憲章・行動規範

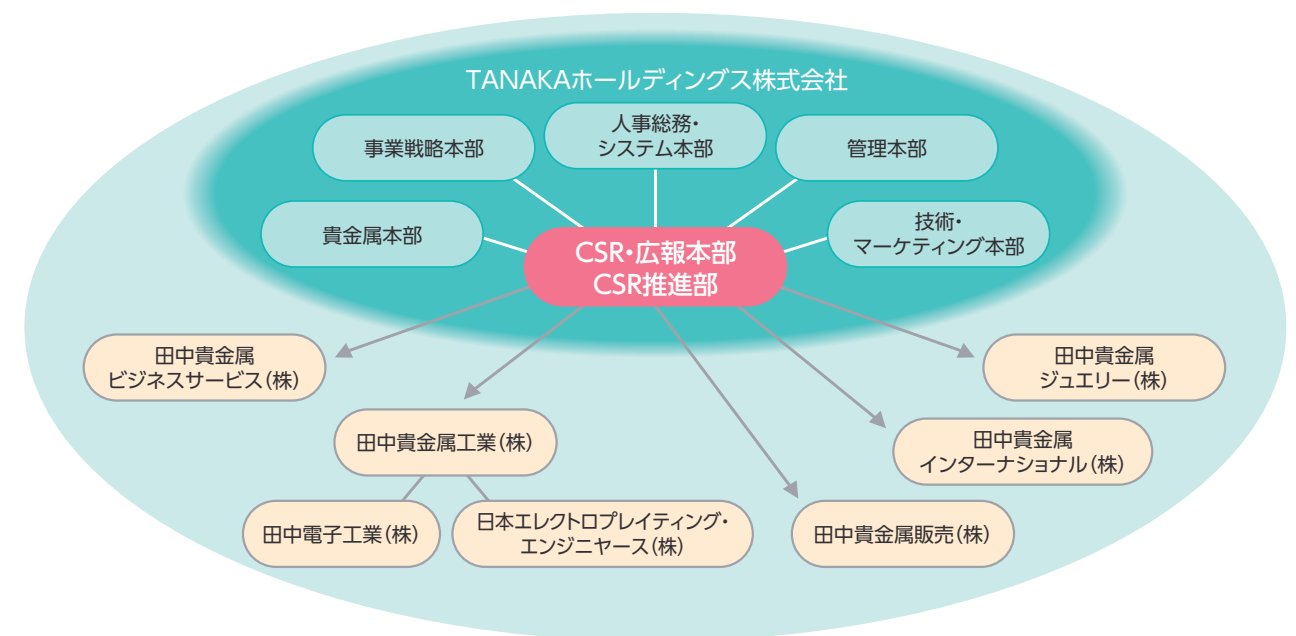
従来、顧客・取引先・株主・従業員をはじめとする全てのステークホルダーの権利と利益を尊重し、適法かつ透明な会計等を実現するための企業経営を行うことを目的とした「コーポレート・ガバナンス及び内部統制原則」を2008年に制定しました。その目的を達成するために従業員一人ひとりが日常業務で守らなければならないことを具体的に定めた「行動憲章」「行動規範」を作成し海外を含めた全従業員に配付し周知を図りました。

近年、取引先であるお客様が、企業の社会的責任(CSR)を果たしていることを取引の前提条件とするようになり、その傾向と要求は年々強くなってきました。そのような、お客様の要求に対応するために、従業員一人ひとりの意識を高めることがますます重要となってきたことから、2014年度は冊子の配付による周知方法からTANAKAグループのホームページを介した情報提供に切り替えるとともに、「行動憲章」「行動規範」の内容をISO26000に沿った形で整理し表現も簡潔でわかりやすいものに改めました。

CSRマネジメント

TANAKAグループは企業理念の下、貴金属のリーディングカンパニーとして、健全な事業活動を推進し、更に地域社会の一員としての社会的責任を果たすことに努め、貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と美しい地球の未来に貢献します。

そのために、社会的責任の国際規格であるISO26000に基づくCSRマネジメントを、CSR・広報本部CSR推進部と各拠点が連携して積極的に進めています。



TANAKA
NOW

TANAKAホールディングス株式会社 CSR・広報本部 CSR推進部 部長 佐々木 雅宏

CSR推進部は、従来からCSR・広報本部に属する法務部、広報・広告部と共に広くCSR活動に取り組んできました。2015年度より本部内に新たにコンプライアンス推進室が設置され、CSR推進部の使命も明確になったので一層気を引き締めて活動していきます。更に今後グローバル展開を図る為TANAKAグループにおいては、従来の守りの部署という位置付けだけではなく、攻めにも貢献できる部署として活動していきたいと考えています。



海外事業展開の 拡大を踏まえ、国境を 越えて人権尊重の 意識を充実

国内のみならず、海外拠点においても社員一人ひとりが人権尊重を意識した企業活動を行っています。

ハラスメント防止教育

ハラスメントは相手の人格を否定する人権侵害です。また、職場風土を悪化させ、職場全体の士気を低下させるなど、企業の生産性の低下にもつながる問題です。ハラスメントは「絶対にさせない」「許さない」を基本に、全従業員がこの問題に真剣に取り組み、ハラスメントの無い職場づくりを推進しています。

2014年1月より海外拠点含む全社の管理監督者に向けて、教育をスタートし、全部署で合計740名が受講しました。2015年度は受講者の範囲を広げて教育を継続し、ハラスメントを絶対に発生させない職場づくりを進めていきます。

ハラスメント防止

～いま、TANAKAグループがやるべきこと～

ハラスメントの無いTANAKAグループへ

4種類のハラスメント
パワーハラスメント
セクシャルハラスメント
マタニティハラスメント
セカンドハラスメント

その他のハラスメントと
法的責任
企業にとってのリスク
上司としての対応方法
裁判事例の紹介

TANAKA
NOW

田中エレクトロニクス・マレーシア株式会社 STELLA LOO

総務課のステラと申します。CSR報告書の人権のページに原稿を貢献できて嬉しいと思います。TEMでこの4年間に男性の上司の下に差別なく相互に尊重するという職場の雰囲気働いています。有給産休制度も整っており、出産後も仕事を続けて、長時間の残業もなくて、仕事と家庭の両立が難しくなく、働きやすい環境だと感じます。従業員の大半を女性が占める会社ですが、皆が楽しくお互いに支えあって会社に貢献して頑張っていると思います。



田中電子(杭州)有限公司 王 琳

製造部検査グループの王琳と申します。今回「TANAKA NOW」に参加させていただいてとてもうれしく思います。TECに入社してもうすぐ9年目になります。この間に、私は同僚と結婚して、今は共稼ぎをしています。子供も産んで、有給産休制度などの会社制度の優遇を十分に享受しました。

出産後も私は仕事を続けていますが、男性の上司からの差別もなく、尊重される気持ちを感じています。特に、総経理をはじめ部長や皆さんからも気遣ってもらって、人情味のある会社だと強く感じます。

私は人情味を持つこの会社で引き続き貢献したいと思います。



多様な人財が 活躍できる環境づくりに 向け、体系的・計画的な 教育を実施

多様な“人財”が活躍できる職場の創造に取り組んでいます。そして、「気づかせる教育、業務に結びつく人財教育、就業時間の20%は教育」をモットーに、体系的・計画的な育成を行っています。

雇用

世界を舞台に繰り上げられる競争に勝ち残るためには多様な人財が必要と考えています。日本国内の新卒採用はもちろんのこと、外国籍の方や障がいをお持ちの方も積極的に採用し、活躍していただいています。なおTANAKAグループでは『社員は企業の財産である』との考えのもと、社内では『人財』と表記していることも特徴の一つです。

●TANAKAグループ社員情報 (2015年3月末現在)		
社員数	3,511人	(3,507人)
国内	2,717人	(2,714人)
海外	794人	(793人)
平均年齢	42歳	(41歳)
男性	43歳	(42歳)
女性	40歳	(39歳)
障がい者雇用率	1.70%	(1.43%)

※()内は前年度

育児・介護への取り組み

育児休業制度、育児短時間勤務制度、介護休業制度などを法定以上に優遇した内容で制定しています。また外部団体と連携し、育児・介護、その他健康全般に関する諸問題の相談窓口を設け、24時間に対応しています。こちらの相談窓口は海外で働くTANAKAグループの社員及び家族も利用することができます。現在は更なる利用促進のため、社内のポータルサイトを活用して広報しています。

●育児休業等制度の利用人数 (2014年度)	
妊娠短時間勤務	2名
育児休業	45名
育児短時間勤務	53名

社内サークル活動

社員間のコミュニケーションを活発にする場としてサークル活動を推進しています。部署間・会社間の壁を越えて親睦を深め、お互いを知ることにより、仕事をスムーズに進めるきっかけとなることを狙いとしています。また、運動不足の解消や精神的な気分転換ばかりでなく、仕事とは別の場で同じ趣味を持つ仲間との時間を共有することにより、より豊かな会社生活を送り、社員が心身ともに健康でいられることを期待しています。

2015年4月現在、社員をはじめ、OB社員、家族を含め、延べ約1,500名がサークルに所属しています。サークルは野球、テニス、フットサルなどのスポーツ、旅行、アウトドア系が82サークル(約1,300名)、音楽、囲碁、将棋、映画鑑賞、料理などの文化系が20サークル(約200名)となっています。

THD社長田苗も将棋のサークルに所属しています。



将棋サークル「田中貴金属将棋連盟」
(左手前:田苗)

田中貴金属労働組合の取り組みについて

田中貴金属労働組合は労使協調を維持しながら、生活水準の向上を目指し、心身ともに健康で安心して働ける環境をつくれるよう、組合員一人ひとりが現状に関心を持ち、支え合うという方針のもと組合活動を行っています。組合の主な活動は「労使協定の協議・締結」「労使交渉・会議出席」「要求案検討」等です。特に労使交渉においては組合員からの意見や情報のもと、会社へ労働条件、安全衛生の改善要求等を行っています。労働組合の要求によって会社が初めて気付く問題点等もあり、組合員の利益だけでなく会社の利益に貢献できるように活動しております。



中央執行委員の勉強会風景(三役会)

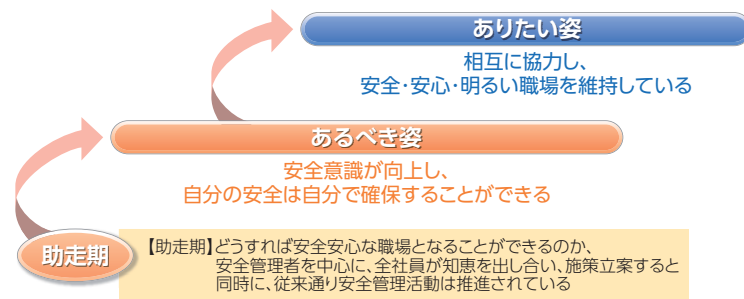


労働災害が減少、交通事故は横ばい

2020年度の「ありたい姿」
「相互に協力し、安全・安心・明るい職場を維持している」に向けて、安全管理活動を推進します。

GOGO計画2020 中央安全方針

“安全を最優先し、安心で・明るい職場を確立する”



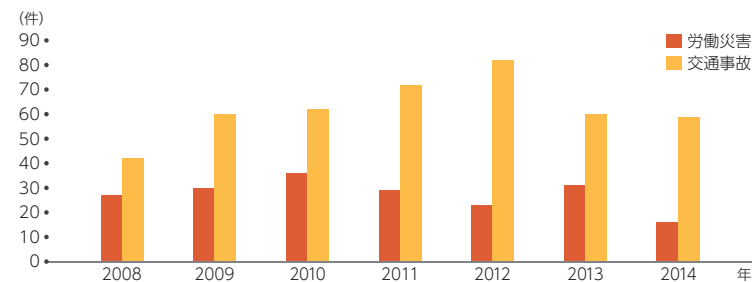
2014年度 2017年度 2020年度

中期経営計画「GOGO計画2020」に基づき、2014年度の助走期を経て、2017年度の「あるべき姿」、2020年度の「ありたい姿」を設定し、中央安全方針を「安全を最優先し、安心で・明るい職場を確立する」としました。

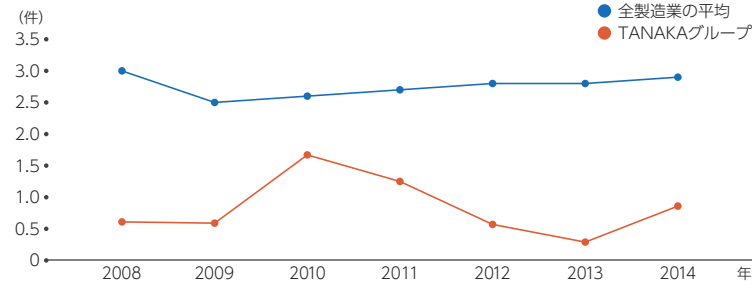
安全管理活動の状況

2014年度は中期経営計画「GOGO計画2020」の助走期として、「全社員が知恵を出し合い、安全安心な職場を目指した活動を行うと同時に、従来通りの安全管理活動を推進する」期間として位置付けました。労働災害は生産現場での災害が減少し、さらに前年度に多発した間接部門での通勤災害も減少したことで、発生件数としては目標にほぼ近い16件にとどめることができました。しかしながら、近年では発生していなかった重大な災害が2件発生しました。従来の活動に加え、特に重大災害の防止を念頭においた活動を加えて行きます。また、交通事故は前年とほぼ同数の59件にとどまり、交通安全活動等が日常の活動として根付いてきたことの成果と考えています。

●労働災害、交通事故発生件数推移



●労働災害年千人率の推移



2014年度の各事業場の安全衛生活動より

○無災害継続と労働局長奨励賞受賞／日本エレクトロプレイティング・エンジニアーズ株式会社

2015年4月現在、7年6ヶ月間の無災害を継続中です。このことは、各部署の安全に対する関心度の高まりと共に、毎月開催されている安全衛生委員会における各部署の安全衛生委員を通じてのヒヤリハット提案に対してPDCA<ヒヤリハット提案の提出強化⇒提案内容の把握⇒対策⇒結果確認>が確実に行われていること、さらに、一つ一つのヒヤリハット提案に対して、対策終了まで確実にを行うという活動意識の高まり、100%対応を目標に社員一同が一丸となって安全活動を行っている成果だと思っています。この成果が認められ、2014年4月には、神奈川県労務安全協会(平塚支部)より、優良企業表彰推薦をいただき、7月に神奈川県労働局長奨励賞の表彰を受けました。



EEJAはこれからも更に無災害を継続するために社員一同

- ①安全意識のレベルを高め
- ②独立型⇒相互啓発型を目指し
- ③ヒヤリハット提案に対する対策を100%実施し
- ④ヒューマンエラーの排除を強化し「安全・安心・明るい職場を確立する企業を目指します。」

安全衛生表彰
神奈川県労働局長より

2014年度の労働災害、交通事故の発生件数

労働災害
16件
(うち、休業4日以上災害は3件)

交通事故
59件
(プライベートを含む)

加害事故 **22件**

被害事故 **32件**

単独事故 **5件**

田中貴金属工業株式会社 湘南工場 衛生管理者 大庭 友佳

衛生管理者の仕事は従業員の健康管理だけでなく、場内を巡視して各職場の作業環境を把握したり、産業医などの健康管理スタッフと連携し、安全衛生、特に衛生面の問題点を見つけ、改善指導をしたりするなど多岐にわたります。任命されて間もなく3年になりますが、実際にやってみて発見することがたくさんあり、エキスパートには程遠くまだまだ成長中です。毎日が忙しく大変ですが、責任のある仕事を任せられやりがいを感じています。これからも一緒に働く従業員の方々にとって働きやすい職場を作るため、誠心誠意頑張ります！



TANAKA NOW



台湾田中電子股份有限公司 安全衛生責任者 Amy Chang

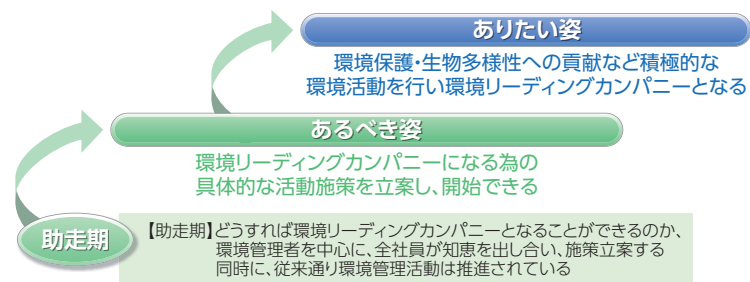
安全衛生責任者として、会社の安全行動方針のもと、安全な職場環境づくり、従業員の安全確保を目指した活動を推進しています。2015年1月にはAEDを各拠点に導入、配備しました。台湾ではAEDに関して、法的に明確な規定がまだできていないため、多くは使われていないのが現状です。更に、もしもの時に社内外で応急手当が行えることを目的として、全従業員に「救命講習」を行いました。講習を受けた方から、「人を助けることがあったら、何も恐れずにAEDを使えるようになった。」「いつ救命救急の必要な状況に出会うかわかりません。そのときにこの講習で勉強した知識を役立てたいと思います。」などの意見が聞かれ、導入して良かったと思っています。

継続的な環境負荷低減を推進し、美しい地球の未来に貢献します。

環境マネジメントシステムを基盤に、グループ全体で包括的に環境経営の品質向上に努めています。

GOGO計画2020 中央環境方針

“国内における、環境リーディングカンパニーになる”



2014年度 2017年度 2020年度

中期経営計画「GOGO計画2020」に基づき、2014年度の助走期を経て、2017年度の「あるべき姿」、2020年度の「ありたい姿」を設定し、中央環境方針を「国内における、環境リーディングカンパニーになる」としました。

環境マネジメントシステム

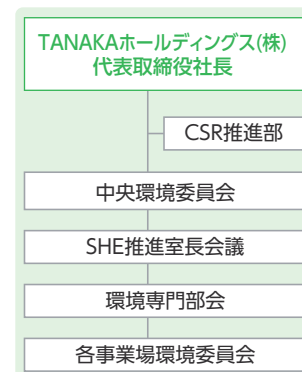
国内全生産事業場及び田中貴金属販売株式会社で環境マネジメントに関する国際規格「ISO14001」の認証を取得し、継続的な環境保全活動を実施しています。

グループ全体での目標を定め、環境負荷低減活動（CO₂排出量削減、廃棄物削減活動等）について、積極的に取り組んでいます。

環境保全を効率的、確実に実行するため、右図の組織体制により、実施しています。

各事業場の総括安全衛生管理者で構成される中央環境委員会をグループ最上位とし、SHE推進室長会議、実務者（環境管理者）で構成される環境専門部会を一定期間毎に開催し、情報共有及び積極的な意見交換を重ね、環境保全活動を効率的、効果的に推進しています。

●環境保全推進体制



環境コンプライアンス

大気及び水質等については原則として法令基準値の2分の1を限度とする厳しい社内管理値を設定し、法令を遵守するだけでなく、環境負荷をできるだけ抑えた事業活動を目指しています。

更に、異常発生時には早期対応、再発防止啓蒙のために社内「速報」による情報伝達を行うと共に、「通報・届出基準」に基づく関係行政当局への連絡体制を確立しています。

●異常発生時の対応体制



CO₂排出量削減活動

地球温暖化の原因物質のひとつである二酸化炭素(CO₂)排出量の削減に取り組んでいます。

2013年度には、基準値(2006年度から2008年度までの平均値)に対して、22%と大きく削減しました。更に、2014年度は、新たな基準値を2011年度から2013年度の平均値とし、6.4%の削減となりました。2015年度からはGOGO計画2020に沿った新たな目標を設定し、全員参加、全社一丸となり更なるCO₂排出量削減活動に取り組んでいます。

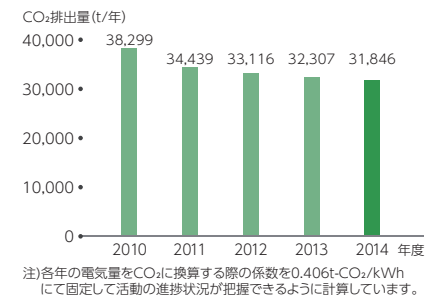


2014年度に設置したLPGを燃料とする空調用LPGボイラー

ボイラーの燃料をLPGに変更してCO₂排出量削減

使用する燃料によりCO₂排出量は、大きく異なります。

岩手工場では、燃料をA重油からLPGとするボイラーに変更することで大きなCO₂排出量削減を目指した活動を行っています。2014年度は、温水用ボイラー1台を更新して、59.0ton/年のCO₂排出量を削減できました。更に、2015年度は、空調用ボイラー2台の更新を行いCO₂排出量を更に削減する予定です。



産業廃棄物削減活動

TANAKAグループで発生する廃棄物の特徴として、化学工場での貴金属の溶解や精製、回収等で発生する酸やアルカリの水溶性廃液がその多くを占めています。

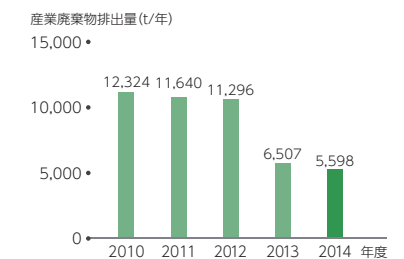
2013年度には、基準値(2006年度から2008年度までの平均値)に対して、51%と大きく削減しました。更に2014年度は、2011年から2013年度の平均値を新たな基準値とし、44%の削減を達成することができました。引き続き、化学工場である湘南工場、市川工場、袖ヶ浦工場での分別の強化や廃液処理設備の更新により、産業廃棄物の削減を進めていきます。



膜式廃液分離装置

含油水を膜式廃液処理装置にて処理して廃棄物削減

平塚工場では、製造工程から出てくる排水に少量の油が含まれているため、含油水として11t/月を産業廃棄物としていました。廃液となる含油水を削減するため、膜式廃液分離装置を導入し、水に含まれる油を濃縮した液(廃棄物)と、油を除去した液(工程排水)に分離することにより、産業廃棄物を3分の1まで削減しました。

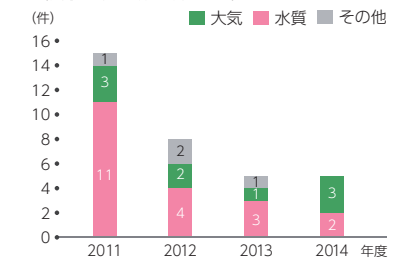


環境異常撲滅活動

2014年度は、環境異常(社内管理値オーバー)は前年と同じく5件発生しました。発生した環境異常に対しては、発生源対策を講じ、再発防止に努めています。

近年は、日々の環境保全活動により減少していますが、更に、継続的に活動を重ね、今後も環境異常の撲滅を目指していきます。

●環境異常(社内管理値オーバー)発生件数 (社内管理値は法令基準値の1/2)



TANAKA NOW

田中貴金属工業株式会社 筑波事業所 エネルギー管理者 太田 尚

事業所長の環境方針に従い、常時稼働している設備の固定電力の削減に重点を置き、改善を進めてきました。

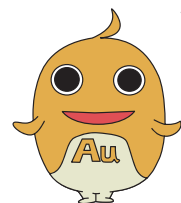
空気調和機のインバーター制御、冷温水発生機のポンプ交流制御等による省エネ改善を進めた結果として、関東地区電気使用合理化委員会より最優秀賞をいただくことができました。今後も更なる改善を進め、省エネ活動に取り組んでいきます。





企業倫理に沿った 経営のための仕組みを グループ全体で運用

法令遵守のみならず、
企業倫理に沿った公正で健全な
経営を実践しています。



AEO認定事業者としての取組み

AEO (Authorized Economic Operator) 制度は、税関当局が国際貿易の安全確保と円滑化を両立させるため、貨物のセキュリティ管理と法令遵守の体制が整備された事業者に対し、税関手続の緩和・簡素化策を提供する制度です。田中貴金属インターナショナル(株)はAEO認定特定輸出者として、貨物・輸送・敷地等の安全性の確保、内部監査、委託先管理、税関・社内の連絡体制、教育体制、安全保障輸出管理などのコンプライアンス体制を整備するとともに、TANAKAグループ内に設置されたAEO総括管理委員会が総括的に管理を行うことにより、より信頼性の高いセキュリティの下での製品の提供を可能としています。



独占禁止法に関する法務教育の実施

コンプライアンス強化を目的とし、2014年度に独占禁止法講習会を実施しました。受講状況は対象者(役員及び国内役職者、営業系社員等)の100%が受講済みです。更に海外へ展開し、国内外合わせて1,121名が受講しています。国や地域ごとの法制度に精通した弁護士を講師とし、下請法や腐敗防止法への言及等、内容の充実を図り、法制度への関心が高まる機会となりました。今後は教育の継続とコンプライアンス・マニュアル制定を予定しています。



国内拠点



海外拠点

紛争鉱物不使用に向けた取組み

紛争鉱物とは、コンゴ民主共和国及びその隣接国の紛争地域で産出される鉱物資源のことで、当該地域の武装勢力の資金源のため密輸等で不正に取引されている鉱物です。米国では、2010年7月に成立した米国金融規制改革法(通称:ドッド・フランク法)で武装勢力の資金源を断つことを狙い、米国株式市場に上場する企業に対し、米国証券取引委員会(SEC)にこれら地域で産出される4種の鉱物(金、タンタル、タングステン、すず)の使用状況の情報開示を義務づけました。

TANAKAグループでは2012年6月にEICCコンフリクトフリー精錬業者(CFS: Conflict-Free Smelter)の認証を受けました。更に2014年6月にはLBMAレスポンシブル・ゴールドガイダンスに基づく第三者機関によるマネジメントシステム監査に合格し、LBMAより紛争鉱物不使用の認証を受けています。

※ ロンドン地金市場協会

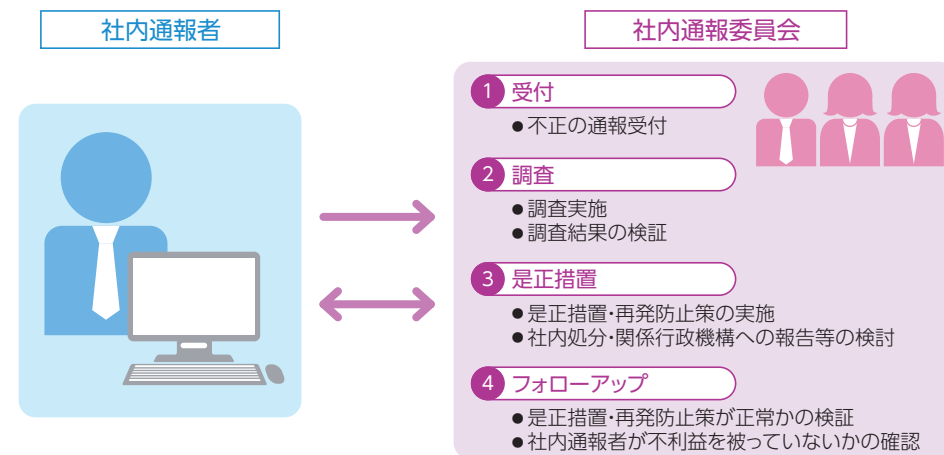


知的財産権の保護

知的財産部はコンプライアンスを重視し、他社特許権・商標権等の尊重及び監視、そして自社特許権・商標権の確保に重点をおいています。また、近年は知財の啓蒙活動を拡大し、社内技術者のみならず、工業製品の営業担当者及びジュエリーの販売担当者に対しても知財教育を行っています。

社内通報制度

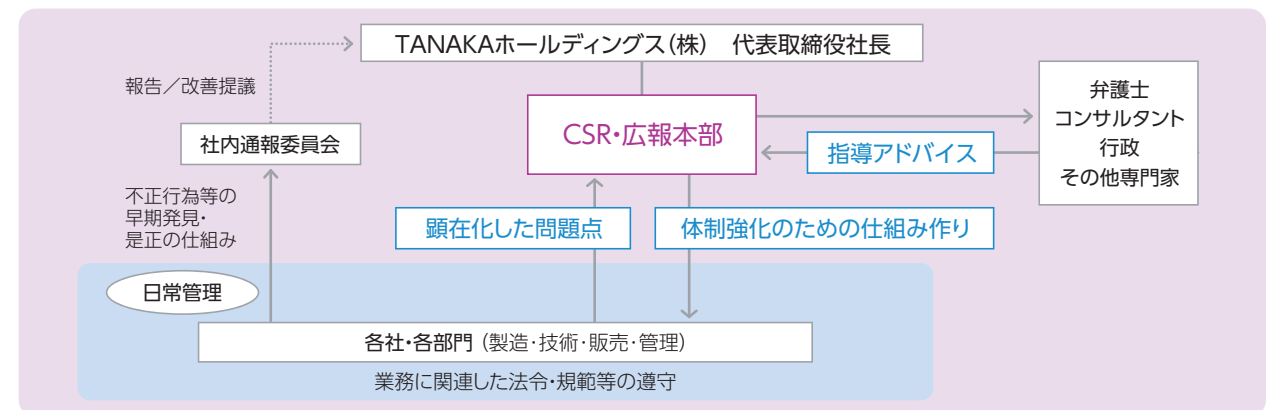
コンプライアンスに関する取組みの一つとして、社内通報制度を設け、従業員等からの通報に対し社内通報委員会が調査・是正措置・フォローアップを行っています。



コンプライアンス推進体制

コンプライアンスに関する問題点や外部からの情報はCSR・広報本部に集約され、TANAKAグループ全体に展開しています。

●コンプライアンス体制



TANAKA
NOW

田中貴金属インターナショナル株式会社 国際営業部 矢頭 幸典

AEO認定維持のために、AEO総括管理委員会の事務局として、その運営や輸出関連部署への教育を行っています。グループ内各社を跨いだ活動のため、社内調整や税関とのコミュニケーションに追われています。

こうした苦労がある一方で、税関のパートナーとしての仕事に携わっていること、自社の輸出取引におけるコンプライアンス維持に貢献していることが、私のモチベーションにもなっています。これからも関係各部署のご支援・ご協力をよろしくお願い致します。

■2014年度に取得した特許(例)

- 特許第5689340号
 - 白金族元素の回収方法
- 特許第5669335号
 - 銀合金ボンディングワイヤ
- 特許第5580142号
 - 免疫測定法による尿中抗原の検出方法
- 特許第5531125号
 - 固体高分子形燃料電池用の触媒及びその製造方法
- 特許第5674697号
 - フューエルセンシング用摺動子に好適な接点材料及びフューエルセンシング用摺動子

2014年度 国内特許登録件数

31件

2014年度 社内通報件数

5件



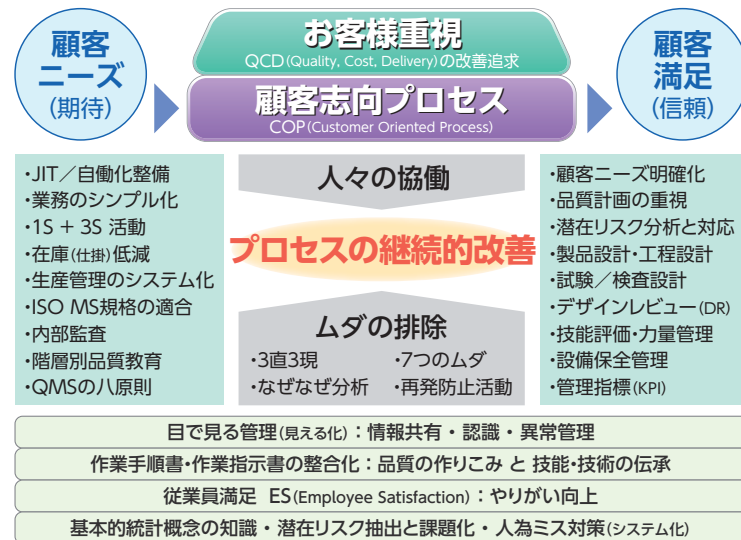
常にお客様との 約束を守るとともに、 期待を超える 対応も追求

確かな品質の実現によって
お客様との約束を守りながら、
期待を超える対応にも
注力しています。

品質保証についての考え方

品質保証とは、お客様にとって商品品質が満足であり、信頼でき、経済的であることを保証することであり、品質保証活動とは各段階の責任者がそれぞれの保証すべき事項を保証すること(『自律型工程保証』と『品質は工程で造り込む』を提唱)を基本としています。『次(後)工程はお客様』を基本姿勢として、工程のステップごとに次のステップに対して品質保証していくことにより、最終的にお客様に対しての品質を保証すると考えています。「お客様のために品質を最優先する風土構築」「全員が品質保証の責任者」「お客様第一・品質第一を達成するために仕事の質向上」を目指し品質保証に取り組んでいます。

●品質管理活動



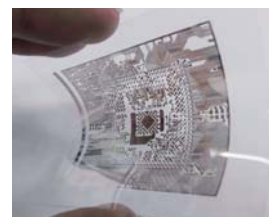
銀ナノ粒子インクの開発

貴金属が必要とされる分野は多岐に渡り、電気配線等でも現在活用されていますが、この分野のものづくりは、今後、数年で大きな変革点を迎え、プリントドエレクトロニクスと呼ばれる「印刷で電気配線を作る」時代が訪れようとしています。この技術はOHPシートのような熱に弱いフレキシブルフィルムに電気配線を形成することを一つの目標として開発が進められているため、鍵となる材料が100℃以下でも焼結する銀ナノ粒子インクとなります。

また、この銀インクは配線部分を担う材料であり、パターンを形成する必要があるため、低温焼結性と同様に印刷に適することも重要となります。

永年に渡って培ったナノ粒子やコロイドの技術を活かし、プリントドエレクトロニクスに関する様々な技術開発を行っています。

2014年より高精細な配線印刷技術に取り組んでおり、タッチパネル等への応用も視野に入れ開発を進めています。



銀ナノインクをPETフィルムに印刷して作った配線(線幅:数ミクロン)



銀ナノ粒子インク

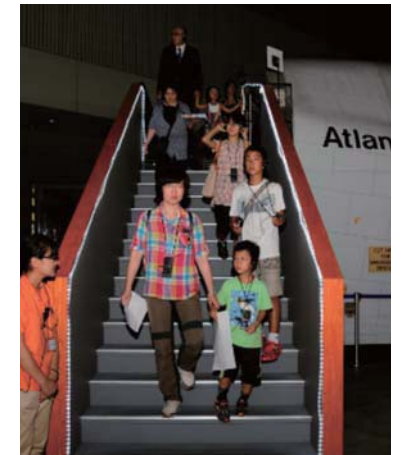
情報セキュリティ

企業における内部統制の一環として、高まる情報セキュリティへの要求、情報化社会の進展に対応するために、情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) を構築し、「個人顧客の情報」に対して適切な保護対策を実施するため、ISO27001の認証取得活動を実施しています。

「宇宙博2014」協賛

2014年7月19日から9月23日までの67日間、幕張メッセ国際展示場にて、宇宙開発に関わるモデル機や実物資料など約500点を展示した「宇宙博2014 NASA・JAXAの挑戦」が開催されました。

宇宙開発分野には貴金属が深く関わっていることから、本展示に協賛しました。場内には宇宙と貴金属の関係について説明するパネルも設置され、来場者に貴金属の特性・特徴を知っていただく良い機会となりました。また、お客様をご招待しての特別内覧会を8月1日に実施し、宇宙開発の世界を楽しんでいただくことができました。



製造から販売まで～プラチナマリッジリング『TANAKA PREMIUM LINE』

「貴金属産業製品のTANAKA」として様々な貴金属の可能性を追求してきた田中貴金属工業株式会社の技術と、「120年以上にわたるジュエリーのGINZA TANAKA」の田中貴金属ジュエリー株式会社の知識と経験を活かし、共同開発により新しいプラチナマリッジリング『TANAKA PREMIUM LINE』を生み出しました。純度が高いほど価値が高く、低いほど硬度が高いといわれるプラチナですが、TANAKAの技術力により純度・硬度共に高い理想的なプラチナ『ロイヤルピュアプラチナ』を開発しました。更に、着け心地や美しさを追求したシンプルなデザインが施されたこのマリッジリングには田中貴金属工業直営工場の証明としての刻印(分銅マーク)が刻まれています。



TANAKA NOW

田中貴金属工業株式会社 技術開発部門 化学材料開発部 久保 仁志

化学材料開発部は現在30名弱の組織となり、「化合物」と「ナノ粒子」の技術基盤を軸足とした事業創設を目指し、日々仕事をしています。何が起るか分からない世界情勢の中、開発の成功と事業化が必ずしもイコールとはなりえませんが、私達のグループでは一つの開発内容が薄くならないレベルで広く網を張り、点と点を面にする開発を行っています。また、開発は「やっていることが本当に正しいのか」を自問自答するような仕事です。そこでモチベーションを維持するため、「社会貢献」と「科学技術が一步でも前進するように」という意識を持って全員で取り組んでいます。技術の蓄積、並びに事業化の準備を進めていますので、必ずや成功するはずです。ご期待ください。

社内外において、コミュニケーションを活発化し、互いに信頼の絆を強めるための活動

『貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現』という大きな目標を掲げてさまざまな活動を展開しています。

人材育成・文化芸術の発展

● 貴金属に関する研究助成金制度

1999年度から実施し16回目となる今回は43件に対し研究助成金を授与しました。



ゴールド賞受賞 東北大学 林育南准教授
TANAKAホールディングス株式会社



ゴールド賞受賞 山形大学 南豪助教

● アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト(高専ロボコン)協賛

2012年から協賛し、日本のものづくりの未来を担う若者をサポートしています。

TANAKAホールディングス株式会社



地域清掃活動

● 大阪マラソン清掃活動

2014年10月
参加人数:15人

田中貴金属販売株式会社 大阪支店



● 孤児院での清掃活動

2015年3月
参加人数:12人

田中貴金属インターナショナル(マレーシア)株式会社



● ミシガン湖清掃活動

2014年9月
参加人数:4人

田中貴金属インターナショナル(アメリカ)株式会社



● その他に

- 工場・支店周辺の清掃活動 (TKH/I東京本社・TKK平塚工場・TKK岩手工場・TKK富岡工場・TKH名古屋支店・TKH岡山支店・TD佐賀工場・TEC)
- 地域の清掃活動 (TKK平塚工場・TKK湘南工場・TKK伊勢原工場・EEJA・TKI香港支店・マレーシアTKI・TEC)

スポーツ振興活動

● 日本障がい者スポーツ協会オフィシャルパートナー

TANAKAホールディングス株式会社



● その他に

- 児童養護施設にてスポーツ練習のお手伝い(TD佐賀工場)
- ボランティアスタッフとしてのフルマラソンサポート活動(TD佐賀工場)

その他

● 従業員家族による工場見学会

2014年8月 参加人数:23人
田中電子工業株式会社 佐賀工場



TD佐賀工場

2014年7月 参加人数:32人
田中貴金属工業株式会社 湘南工場

● 築地警察署より表彰

築地警察署管内青年補導協力会員として少年の健全育成と非行防止に貢献したことにより表彰されました。

2015年2月

田中貴金属ジュエリー株式会社 銀座本店



● 心斎橋避難所開設訓練に参加

大阪市立南小学校にて開催された訓練に参加しました。
2014年11月

田中貴金属ジュエリー株式会社 心斎橋店



● その他に

- 丸の内の打ち水プロジェクト(TKH/I本社営業部)
- 献血活動(TKK湘南工場・TD佐賀工場・TEC)
- 地域の交通安全活動(セーフティ123)に参加(TKH仙台支店)
- 障がい者の方々が作ったパン販売の売上貢献(TD佐賀工場)

寄付・募金活動

● 会社のファミリーディにCCF(こどものガン財団)を招待し映画鑑賞と寄付

2015年3月
参加人数:200人

田中エレクトロニクス・シンガポール株式会社



● フリーマーケットを開催し、売上をあしなが育英会に寄付

2014年12月
参加人数:150人

田中貴金属販売株式会社 東京本社
田中貴金属インターナショナル株式会社 東京本社



● 募金型自販機の設置(マングローブ植林事業・開発途上国の子供達の学校給食支援)

田中貴金属工業株式会社 湘南工場



● 住民団地で古着回収と寄付

2014年11月
参加人数:17人

田中電子(杭州)有限公司



● その他に

- エコキャップ活動 (THD/TKK/TKH/TKI東京本社・TKK岩手工場・TD佐賀工場)
- プルタブ回収による車椅子の寄付(TD佐賀工場)
- 余剰カレンダーを福祉施設に寄付(TKH大阪支店・TKH仙台支店)
- 使用済み切手を収集し、福祉団体に寄付(TKH/I東京営業部)
- 外貨募金活動(TKH/I東京本社)
- 乳がんをなくす ほほえみ基金への寄付(TKJ)
- 日本赤十字社への寄付(TKJ銀座本店)
- 日本ユネスコ協会連盟の「東日本大震災子ども支援募金」に寄付(TKJ銀座本店)
- フィリピン台風被災地への寄付(TEC)
- 洗車した代金を寄付(TEC)
- 社内で古着回収と寄付活動(TEC)

● 愛の絆 桜の植樹135

TANAKAグループ全体の活動として東日本大震災以降、東北復興支援ボランティアとして様々な形で活動を行ってきました。2013年度より「記憶の継承」をテーマとして継続的な支援活動を開始しました。避難の目安とするために、津波最高到達地点に、桜並木を作るための植樹活動を継続的にを行っています。2015年4月現在、60本の植樹を行いました。

TANAKAグループ全体

1年目(2013年度)の植樹 宮城県亘理郡亘理町吉田地区交流センター

2014年3月



2014年11月



2015年4月



花を咲かせました

2年目(2014年度)の植樹 特別養護老人ホーム「杜の里」



TANAKA NOW

田中貴金属工業株式会社 伊勢原工場 人見 尚子

東日本大震災後、何らかの支援をしたいとずっと考えていました。これが、東北復興支援ボランティアへの参加のきっかけです。私の周りには直接現地へ出向いたり、食事や買い物で貢献したり、またこの活動のように間接的に関わったり、さまざまな形で復興支援をしている多くの方がいます。今回の活動を通して、人々の奥底にある温かさに触れることができました。「困っている人を助けたい、何かしてあげたい」と手を差し伸べる日本人の「おせっかい」精神を、素敵だといつも感じています。



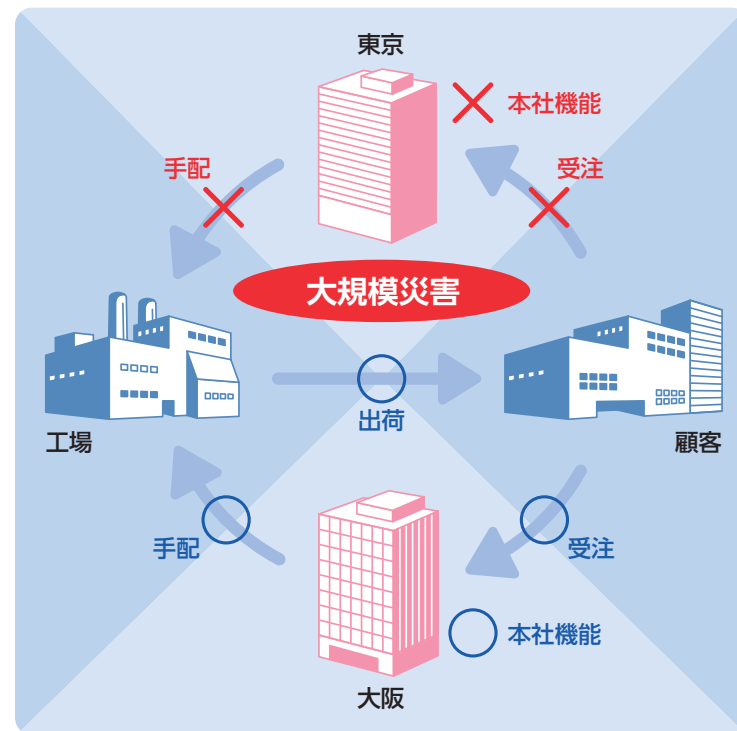
多角的なアプローチで リスクに備え、非常時の 事業継続を確保

災害等の非常時においても製品の
安定供給への責任を果たすために、
事業継続の確保に取り組んでいます。

本社機能のBCP(事業継続計画)

TANAKAホールディングス株式会社は本社機能のバックアップとして大阪本社を設立し、東京本社と大阪本社共通の情報システムに基づきグループ全体の管理業務をどちらの本社でも遂行できるようにしています。また、全てのデータを関東と関西それぞれのバックアップ拠点に二重に保管できるようにしました。この情報システム環境を基盤にして、国内外における製品の受注から出荷までの日次業務や管理業務を担うお客様対応機能、輸出入における実務や管理業務を行う貿易機能、地金の調達と値決めの実施や売買入力などの業務を担うトレーディング機能を両本社で共有し対応できるようにしています。

2014年度は東京で災害が発生したことを想定し、大阪本社で初動対応訓練を行いました。



大阪本社立ち上げ訓練風景

TKKセキュリティ員の防災訓練・AED講習会に参加

TANAKAグループのセキュリティ専任者は社員で構成されており、配属時には新任警備員が受講する3日間の導入研修を受講しています。しかしセキュリティという職務上、交代で夜勤務があるため、それ以外の教育訓練を受けるための時間が中々取れません。そこで今回、皆が一同に集まるセキュリティ全体会議の開催日を利用し、いざという時のための消火器とAEDの使い方の講習会を実施しました。丸ノ内消防署にご協力いただき、座学及び実演による訓練を行いました。セキュリティ専任者の方からも非常に参考になり自信がつけましたとの意見をいただきました。

今後は更にTANAKAグループのセキュリティ員としてのマナー向上のため電話対応、受付対応の勉強会も計画しており、会社の顔としての質の向上にも努めていきます。



自衛消防訓練受講者数

34名

東京消防庁丸の内消防署にて
AED及び消火器の取扱い訓練

TKJセキュリティの内製化

TANAKAグループの「自分の会社は自分で守る」というセキュリティに対する考え方の下、TKJも昨年の5月から内製化をスタートさせました。当初は2014年4月からの運営を予定していましたが、丁度この時期に消費税が5%から8%に引き上げられたことによる駆け込み需要で店頭の混雑状況が激しくなったため、5月からのスタートとなりました。

田中貴金属工業(株)の生産部門である各工場では既にセキュリティの内製化を進めていましたが、不審者の侵入を防ぐことが主な目的である工場のセキュリティ業務とは異なり、BtoCビジネスにおけるセキュリティ業務は店舗営業時間における不審者、不審物の発見と強盗犯に対する抑止力が主な役割となります。そのため立哨警備による業務遂行は緊張感の連続ですが、安全・安心をお客様と従業員に提供するため日々業務に励んでいます。



TKJ防犯訓練

毎年各支店毎に地元の警察署立会いのもと模擬強盗訓練を行っています。

これは年1回行われているもので、万一強盗に襲われた際、従業員がパニックにならず、落ち着いて対応し、お客様、従業員の安全を最優先に行動がとれるような訓練となっています。



犯人役は警察官の方が担当し、実際に刃物を持ったり、ピストル(モデルガン)を発砲させたりしますが、日ごろの職務で慣れていらっしゃるためかなりの迫力があります。実際にこのような事件が発生した場合は、犯人には抵抗をせず、警察への直結警報ボタンを押し、犯人の特徴を覚え、逃走経路の確認、現場保存を行うなどの対応をして、警察の捜査に協力します。

この一連の訓練は毎年行われ、毎年行われるこの訓練により従業員の防犯に対する高い意識を維持しています。

田中貴金属ジュエリー株式会社 管理部セキュリティセクション 服部 敏行

「自分の会社は自分で守る」という考えのもと、首都圏3店舗でお客様及び従業員の安全・安心を提供することを我々は任務としています。「防犯意識」を常に持ち、その抑止力となるべく、日々、警備業務に従事しています。警備の際、スーツ着用で警備腕章と名札をつけていますので、お客様からお声を掛けられる場面も多く、GINZA TANAKAの従業員として「心はずむ瞬間」をお客様に提供するという思いも大切に警備業務を遂行していきたいと考えています。





第三者所感

CCI研究所代表、日本広報学会理事長、日本パブリックリレーションズ協会理事、日本経営倫理学会CSR部会会員、環境カウンセラー

清水 正道

【略 歴】

横浜国立大学経済学部卒業、日本能率協会を経て淑徳大学国際コミュニケーション学部・経営学部教授。2014年退職しCCI研究所設立。専門は環境／CSRコミュニケーション、広報マネジメント。主要著書に『戦略思考の広報マネジメント』『三方よしに学ぶ人に好かれる会社』『環境コミュニケーション』『人にやさしい会社－安全・安心、絆の経営』『広報・PR概論』『CC戦略の理論と実践－環境・CSR・共生』『会社員のためのCSR経営入門』など多数。

本欄の意見は、TANAKAグループ筑波事業所の視察及びCSR・広報本部へのヒヤリングに加え、本報告原稿や当社ウェブサイトを開覧して執筆します。

TANAKAグループは、2014年度に行動憲章・行動規範を改定したほか、社会貢献活動も交流をテーマとして積極的な展開を図るなど、企業の社会的責任(CSR)と持続可能性(サステナビリティ)の両立に取り組み、2015年度からは、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年度に向けた中期経営計画「GOGO計画2020」をスタートさせました。

グローバル化の進行、人口構造変化、法・社会制度の改革など、明治維新时期にも匹敵する変化の時代にあって、当社がどのような価値創造を目指す企業なのかを確認する手がかりとなる報告です。「本報告書」がコミュニケーション向上活動(チャレンジシップ)を続けるトップ・社員の皆さまと多くのステークホルダーの方々との「対話の場」になることを期待します。

2015年版CSR報告書を読んで

TANAKAグループの多岐にわたるCSR活動が、中期経営計画と連動していること、そして昨年指摘した課題についても積極的に対応いただいたことも確認できました。その一方、気になる点もありますので、個別に記述させていただきます。

1つめは、全体として読みやすくなりました。企業理念・行動指針から事業概要に至る冒頭部分の説明も格段にわかりやすくなりました。また各ページに社員の方々の顔写真とメッセージが多数掲載されるようになったことにより、より親しみが持てるようになりました。

その一方、当社のもつ事業特性や各職場での具体的な取組内容などを限られた誌面で表現するのは簡単ではありません。紙の誌面とウェブサイトの情報とを連動させ、優れた事例が「なぜ」「どのように」できたのか、もっと具体的に表現できると、当社への魅力がもっと増すでしょう。

たとえば、筑波事業所の大震災時の対応やCSR推進部が毎日発行する「CSR通信」、全社的取組の産廃削減等は、社内だけでなく社会的にも共有したい行動です。幅広い方々に成果を報告するだけでなく、特定の方々にも具体的な事実を提供することは、社会の潜在的期待に応えるCSR活動です。

貴金属のリーディングカンパニーに期待したいこと

TANAKAグループの本社や事業所を何回か訪問・視察して思うことは、「いまリーディングカンパニーの現場に立っている」という感覚です。しかし残念ながら、全体としてそのような印象が十分伺えません。最先端の素材や製品の価値をどのようにイメージ豊かに表現していくか、職場でもこの報告書でもぜひ表現してほしいと思います。

2つめは、総合的あるいはホリスティック(統合的)な取組を促進しつつ報告する方策についてです。昨年、日本広報学会が大企業の社内コミュニケーション調査を行ったところ、縦割り・横割りの弊害が課題として浮かび上がりました。大事な情報を効果的に伝えていないのです。

どんなに優れたルールや制度をつくろうと、それを守るのは一人ひとりの個人です。当社の職場ではどこでも行動指針5カ条に沿った行動が見られますが、しかしニュース報道によれば、いまだに有名大企業でも不祥事が発生しています。上下、左右、斜めにも広がる双方向のコミュニケーションを、誰に、いつ、どのように「接続するか」をぜひ考えてください。

3つめは、各ページにわたって、改善・改革の成果を具体的に数字で表現したことで成果と課題を確認しやすくなりました。数字は万国共通の言葉です。グローバル化を進める当社は、今後ますます多様な言語や価値観、生活習慣をもつ社員が増えることでしょう。そのためには、数字を含む共通言語づくりをさらに進める必要があります。一人ひとりが職場の日常用語に抱くイメージは意外に異なります。それではいざという時に問題発生となりかねません。

今日の世界にはさまざまな難問が待ち構えています。貴金属は宝飾用や資産用に止まらず、産業システムを通じて21世紀社会の難問解決に向けて貢献できる可能性を秘めていると思います。素材革命を通じた事業推進とCSR活動の両輪でのチャレンジは、最近注目されている共通価値の創造(CSV)に通じるでしょう。さらなる発展を望んでいます。

TANAKAグループより

TANAKAグループでは2015年度より新しい中期経営計画(GOGO計画2020)を本格的にスタートさせます。2014年度はその助走期間として位置づけ、2020年のTANAKAグループのありたい姿を達成するために取り組むべき課題を検討し、CSR活動も重要な課題の一つとして挙げられています。企業は単に利益を上げれば良いのではなく、安全、環境、コンプライアンス、社会貢献等さまざまな形でCSRを推進し、かつ供給する製品及びサービスで社会に貢献することが求められます。これは、企業が200年、300年と続くためのサステナビリティ(持続可能性)となります。このCSR活動は決して上から指示して出来るものではなく、企業活動に関係する一人ひとりが自主的に、全員参加で行うことが大切であり、そのためには第三者所感でご指摘いただいた通り、従業員の意識の向上と相互のコミュニケーション活動が重要です。TANAKAグループでは従業員の方々が積極的にCSR活動を推進することを全面的にバックアップし、意識とコミュニケーションを高めることに全力を注ぎます。

また、このCSR報告書は昨年度に従業員の方々が実施したCSR活動の集大成です。毎年皆さん方からのご意見をいただき、より分かりやすく、見やすくするよう努力していますが、今年は更に楽しみながら読めるように工夫していますので、是非ご一読いただき、CSRに対する意識を向上していただくと共に、相互コミュニケーションツールとして本報告書を活用くださるようお願いいたします。

TANAKAホールディングス株式会社
取締役常務執行役員
CSR・広報本部長
池田 収



編集方針

CSR報告書は、貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と美しい地球の未来に向けたCSR(企業の社会的責任)の取り組みをステークホルダーの皆様に報告し、コミュニケーションを図っていくことを目的に発行しています。
2013年版よりデザインコンセプトとして新しく採用した「贈り物」を継承し、わかりやすく、読みやすいCSR報告書を心がけ編集しています。
皆様のお声をTANAKAグループの今後の取り組みに活かしていきたいと考えておりますので、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

対象期間

2014年4月1日～2015年3月31日
但し、各テーマに沿った会社の活動の全体像を知っていただくために、一部対象期間外の内容も掲載しています。

対象範囲

TANAKAホールディングス株式会社と連結子会社を含むグループ全体を対象としています。
なお、対象範囲が異なる場合は当該箇所に明示しています。

発行時期

2015年7月

参考ガイドライン

(一財)日本規格協会「ISO26000:2010」

ウェブサイト

本報告書の閲覧はバックナンバーを含め、右のウェブサイトをご利用ください。<http://www.tanaka.co.jp/csr/index.html>

発行責任部署

TANAKAホールディングス株式会社 CSR・広報本部 CSR推進部
〒100-6422 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルディング22階
TEL 03-6311-5506(直) FAX 03-6311-5508 ホームページ <http://www.tanaka.co.jp/>